

## 巡礼の山を支える人々

各地の巡礼の山道は、手入れがされなければやがて荒廃してしまう。道中を快適に歩けるのは、地元の人ボランティアを中心とした、こまめな整備活動によるところが大きい。全国の巡礼の山道の中でも、とくにボランティアの活動が際立っているのが、熊野古道の大峯南奥驛道おのみねみなみおくがけみちを中心とした活動を行う「新宮山彦ぐるーぷ」だ。創設以来45年の歴史ある山の会で、86年からは修験行者の千日回峰行になぞらえて「千日回峰行」と銘打ち、荒れ果てて通行不能となっていた南奥驛道、約45キロを3年がかりで刈り拓いた。1990年代に



ボランティアで整備を行う「新宮山彦ぐるーぷ」のメンバー



携帯充電装置まで備え付けの快適な避難小屋（南奥驛道 平治宿）

は参詣者のための避難小屋の新築や改修を複数手がけた。

現在も台風で崩落した登山道の補修や、避難小屋の維持管理を定期的に行う。避難小屋には薪ストーブや非常食、さらには携帯電話の充電装置まで備えてあり、快適そのものだ。

また修験道の行者が奥駈修行を行うときは、食事や宿泊の支援も行っているという。一連の地道な活動は、熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたことにも少なからず貢献している。こうした有志のボランティアをはじめ、各地の山々には縁の下の方力持ちの存在がある。興味が湧いたら、ホームページなどをのぞいてみよう。

## 今は少ない女人禁制の山

今となっては少なくなったが、立山、白山、富士山、石鎚山など、かつて多くの霊山では、いくつかの宗教的な理由から女性の立ち入りが禁じられていた。山岳信仰においては、山に登ることによって救いが得られると考えられていたが、そのご利益を受けられない女性のために、高野山のように女人堂を設け、修行ができるようにするなどの救済措置がとられた。また立山の芦峠寺では「布橋灌頂会」という儀式が営まれた。これは白い布の敷かれた橋を対岸に渡り、対岸のお堂で儀式を済ませて戻ってくることで、立山に登ったのと同じご利益が得られるというものだ。130年あまり途絶えていたが平成8年に復活し、現在は3年おきに催され、多くの観光客を集めている。

女人禁制は1872年、近代化を進める明治政府によって廃止の布告が出され、ほとんどの山で廃止されたが、今も紀伊半島の大峯山では女人禁制を保つ



立山、芦峠寺の布橋



大峯山の女人禁制門

ており、それぞれの方面の登山道には、女人結界門が置かれている。しかし過去においては、魅力ある大峯山にどうかして登りたいあまり、男装して忍び込もうとしたというツワモノもいたとか。